



発行所
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話(09894)5-4533
印刷
栄光堂印刷

町の世帯・人口
(昭和57年7月末現在)
世帯数 4,340 世帯
人口 17,467 人
男 8,928 人
女 8,539 人
7月の人口移動
出生 35人 死亡 5人
転入 131人 転出 73人
婚姻 11件 離婚 1件

九月十九日は町議選の投票日

二十二人の議員を選ぶ

午後五時までに限る。

議員定数
二十二名

西原町選挙管理委員会(玉那覇三郎委員長)は、昭和五十七年九月二十七日任期満了にともなう町議会議員選挙を次の通り決定しました。

一 告示日(選挙運動開始日)
昭和五十七年九月十二日

二 投票日
昭和五十七年九月十九日

三 登録基準日及び登録日
昭和五十七年九月十一日

四 縦覧期間
九月十二日から九月十三日まで、但し、午前八時三〇分

●投票の御注意
投票の御注意
投票の御注意

●投票の御注意
投票の御注意
投票の御注意

●投票の御注意
投票の御注意
投票の御注意



▲沖縄本島で南限とされる沖縄ウラジロガシが琉大千原キャンパス内に現存している。首里城の柱(唐ハーフ)にも使われた。

沖縄ウラジロガシ

町では、町民意識の高揚を図り町民生活の指針となる町民憲章の制定を検討していたが、八月三日午後三時、町役場会議室で町民憲章制定委員会の委嘱式が行われ、町長から各委員の方々に委嘱状が手渡された。委員は十四名で任期は憲章制定までの期間となっている。その日、委員の互選により委員長に親泊輝武町議会議長が、副委員長に平安恒政助役が選出された。

近々憲章制定がなされ、十一月六日・七日に行われる予定の西原



▶町民憲章制定委員の委嘱式

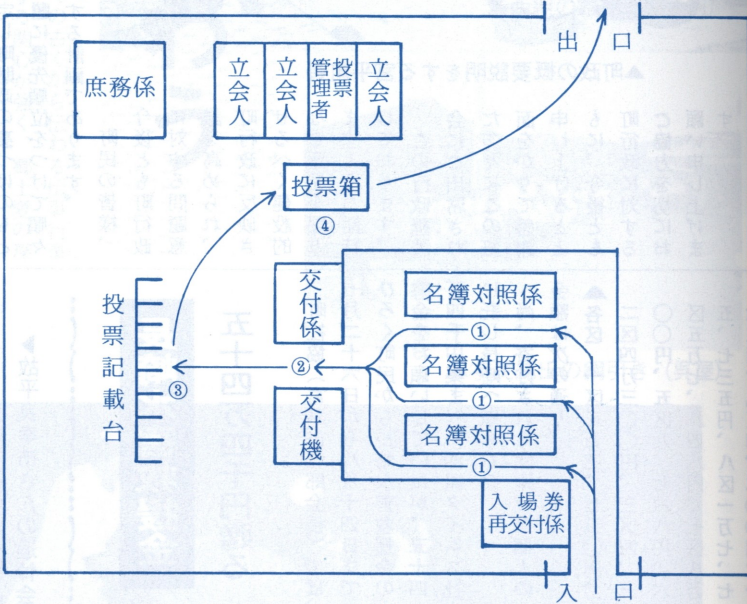
とができます。事務管理執行上告示前に申請して下さい。但し、郵便投票は自筆で署名できることが必要条件です。

●代理投票について
右の郵便投票に対し、文盲、上



▲前回の町議会議員選挙の投票

投票会場図(第一投票所の場合)



肢障害などで文字の書けない方は投票日の当日、投票所で、投票管理者に申請して、代表投票をすることが出来ます。

●投票の時間
投票の時間
投票の時間

投票の時間
投票の時間
投票の時間

○第二投票所
坂田小学校体育館
(対象一区一六区、十五区、十六区)
◎入場券をなくした場合
投票できる資格のあることを確認した上で、投票していただきます。なお、九月十二日の告示日を過ぎても入場券のない方は、前記縦覧期間内に選挙管理委員会に直接来て確認して下さい。
その他の詳しいことは町選挙管理委員会にお問い合わせ下さい。
電話五〇一五〇一三

10月	9月	期日	指定店	電話
11日	26日	新川設備業	五〇六七四八	
10日	23日	広栄水道	五〇四九三六	
9日	20日	朝市設備	五〇三二二二	
3日	17日	工業	五〇二〇七〇	
10日	23日	新和設備	五〇八六五九	
11日	26日	与那嶺設備	五〇五三三〇	

水道の日曜日、祝祭日
修理当番日程

町ぐるみで反対運動 問題の自動車ホテル建設 今後とも建設阻止の構え



町長 宮平吉太郎

のどかな自然の中の生活環境を破壊し、青少年の健全育成に悪い影響を与える自動車ホテルの建設はまかりならんと宮平町長は、今後とも自動車ホテル建設には強い姿勢で建設阻止をする構えを明らかにしている。町としては、あらゆる

手段を講じて反対していく方針である。

六月二十五日に那覇市内の某氏から池田ダム付近の字池田一〇八番地の二階建アパート（現在空屋）を改造して自動車ホテルを建設しようとする建築確認申請があったが、七月二日、宮平町長は某氏に対し本町には絶対にこの種の建設は認められないと強い姿勢で話し合いを持って同申請書を取り下げてもらった。そのことで一応、池田の自動車ホテルの建設計画は断念された形となったが、今後とも

同様の問題がいつ起るかかわからなく町としても細心の注意を払うつもりである。

同問題は、五月二十一日に建設計画があることは知られていたが、いち早く地元池田住民（宇久田朝秀区長）が立ち上がり部落常会で「自動車ホテルの建設は、生活を

町民の声を行政に 行政懇談会各区で行う

町では、七月十九日から七月三十日までの日程で町内各区で町民の皆様の町行政に対するご意見、ご要望を聞くことにより町行政に反映させようという町行政の一環として行政懇談会を開いた。町四役と全課長、全事務局局長が二班にわかれ一日に二つの行政区の行政懇談会に当たった。十三区では、予定された日に停電したため日程を延期し八月八日に行われた。

各区とも、町行政側から約十人と区民が二十人から四十人が出席し、町長または助役から町政の概要説明を受けて後に懇談会がはじめられた。町道・部落道の整備舗装の問題、準用河川や側溝の改修の件、土地改良の問題、交通安全対策その他安全対策について、市街化区域内の区画整理問題、保育料の問題、町民税固定資産税の件、町の財産計画について、町の基本構想と重点政策について、西原運動公園の件、教育問題、その他特色な問題に対し区民側が活発なご

意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

町行政は、各区の区民の皆様の意見、ご要望を投げかけ、行政側がこれに答えていくという形で行政懇談会がなされた。午後八時から二時間程度懇談された。

故平良幸市さんのご冥福を祈る 追悼会しめやかに 行われる

深い郷土愛と土着精神を貫いた政治家・故平良幸市さん（前県知事）の追悼会が八月十四日午後二時から本町の中央公民館で行われた。

この追悼会は、「故人の遺徳を偲ぼう」と行われたものでご遺族をはじめ関係者、地元有志、故人の友人や知人など約四百人が出席した。

祭壇には、沖縄独特の月桃（サンニン）や仏桑華（アカバナ）、クロトンなどが簡素に飾られ中央に故平良幸市さんの遺影がかかげられた。

追悼のことは、高原久男委員長、屋良朝苗元県知事、喜屋武真栄参議院議員、平良良松那覇市長、宮平吉太郎町長の順にさげられた。そして、代表焼香などが行われた。遺族を代表して平良徹夫さん（故人の長男）が謝辞を述べ、最後に一般参列者の方々と焼香し故人のご冥福を祈るとともに遺徳を偲んだ。

長崎水害救援金 五十四万四千円贈る

町社協（宮平吉太郎会長）では、七月二十六日から八月十四日までひろく町民から長崎水害救援金の募金をお願いしていたが、五十四万四千円集まり、沖縄タイムス社に託し長崎へ贈られた。

尚、寄付された団体及び個人の金額は次の通り。

▲各区 一区三万三、七五〇円、二区四万三〇〇円、三区四、三〇〇円、五区九、七六八円、六区五万七、八四八円、七区八万五、七三五円、八区一万七、七五五円、九区四、二〇〇円、十

ムダのない暮らしでムリのない貯蓄

一 区三万二、二二〇円、十二区一万六、七七〇円、十三区二万六、五〇〇円、十四区一万七千円、十六区三万六、四一〇円

▲個人 字翁長六〇一九の山田親次さん五千元、那覇市首里金城町一五の山田親夫・菊子夫妻一万元、同住所の山田親度さん一万元、字小那覇二四五の新垣哲夫さん二万元、同住所の新垣哲夫さん三、九五〇円

▲職場 字小橋川一七〇の友信自動車二万二、一八八円、町社協関係者二万七千元、町役場五万八十六円。

▲合計 五十四万四、〇〇〇円

この募金にご厚意を寄せられた方々に対しこの紙面をかりて深く感謝申し上げます。

フォートニュース



▲雌綱と雄綱 (小那覇)



▲上割と下割の綱が寄せ合うところ (我謝)



▲カネチ棒で綱をささえる (幸地)



▲シタク (子ども) を乗せた綱 (小橋川)



▲部落中通りでの綱引き (内間)

綱引き各字で賑わう

恒例の伝統行事・綱引きが八月十四日(旧暦六月二十五日)に呉屋、津花波、小橋川で、翌日十五日に幸地、内間、嘉手苅、小那覇我謝、小波津で行われ、九ヶ字で賑わった。

盛夏の中の豊年祭りであった綱引きは、字の繁栄を祈願するとともに字民の親睦と連帯感を深めるのに大きく役立った。

伝統の綱引きがこれ程多くの地域で根強く残っているのは、地域の方々の古くから伝わる伝行事事に対する関心が強く、郷土愛の深い現れである。字発展のためにもこの伝統の綱引きが末長く続くことを期待したいものである。



▲西組の雄綱 (嘉手苅)



▲字民総出の綱引き (呉屋)



▲カネチをつぐところ (小波津)

町社協では、心配ごと相談を毎週水曜日午後2時～5時に行っています。

はじめ

三区は、徳佐田、森川、千原を主体に幸地、翁長、棚原などの一部で組織されている。

一〇五世帯人口四四〇人を擁し、面積一・四六平方キロメートル、南北に約二・〇キロメートル、東西に約二・七キロメートルである。

行政区界の変遷は、昭和六年に字棚原より字森川が分離独立し、昭和八年に字森川より字徳佐田、字千原がさらに分離独立した。昭和五十二年九月に行政区改編により字徳佐田、字森川、字千原を統合する形で三区が組織されるようになった。

位置

三区は、本町の最北端に位置し、浦添市字西原、宜野湾市字我如古、

同市字志真志、中城村字南上原などに境界を接している。三つの市町村を三歩で歩ける場所が二ヶ所もあり、地理的に特異なところである。

字徳佐田・字森川・字千原の三ヶ字が包含されたため、本町で最も長い行政区である。

西原人口・十字路から県道三八号線を徳佐田向けに約三百メートル下ると徳佐田入口（三差路）にさしかかる。そこを左折し、町道徳佐田一森川線（延長一・八〇メートル）をほぼ北東方向に進むと徳佐田、森川を通り県道三四号線に交差する森川十字路（森川グリーンゴルフ場付近）に出る。十字路を右折し南下すると疏大キャンパス入口の三差路にさしかかり、そこを左折し疏大農学部園場を右側のぞみながら約千メートル行ったらところに三差路がある。その三差路を左折し、約八十メートル行ったらところに千原の集落がある。

徳佐田

徳佐田は、旧藩時代から棚原の屋敷（ヤードウイ、農村地域に土族が移動してつくられた小村落）であった。首里からここへ転入して来たものが多いが、隣の棚原からここへ移り住んだ人々も多い。

年中行事は主として棚原へ参加して一緒にやっている。昭和八年頃字森川から字徳佐田として分離独立している。独立した理由は、森川との距離が遠く行政上不便だったことである。

屋敷部落なので部落共有の拝所はない。現在は、三十四世帯、人口一四六人である。

森川

森川は、棚原の屋敷部落として発展してきた。薩摩置県（明治十二年、一八七九年）前後、首里からここに棚原家や他の一族が転入

一貫井、水は豊富である。



徳佐田グテービラ

昔、首里から石嶺を経て徳佐田を通って南上原、中城へと貫通する道は一つであった。その道は、徳佐田から棚原へ抜ける途中が急な坂道になっていて、ここで杯を持った王が乗っているかごを杯の酒がこぼれないように運ぶよう命

ぜられて、かごをつぎたが非常に体力（グテ）を消耗したのでこの坂のことをグテー坂（ビラ）と呼ぶようになった。この坂を登りつめた丘に見晴のよい広場があった。この広場をターバ小（ゲア）の前と呼ばれ、ターバ小という商店があった。棚原・森川・徳佐田一帯で唯一の商店であった。この場所はずうと棚原、徳佐田の境界付近であった。

グテービラの全景



千原

尚敬二十一年（一七三三年）に千原に茶山が切り開かれたことが記されている。この時から千原へ茶山、杣山（そまやま）の管理人

茶山跡



シージマタヌ御嶽

シージマタヌ御嶽は、ナービグミの近くにあり、珍らしくこの嶽は谷底にある。それは、現在の疏大北前食堂の南側の深い溪谷に位置している。

昔、糸蒲門中の先祖がここで棚原門中のために族滅されたところから知られている。糸蒲門中の巫女がナービグミで水死したと伝えられ、巫女の死は糸蒲門中の全滅に近い敗戦を物語るものであった。付近に巫女の墓がある。

シージマタヌの訛（なまり）から来たもので、シーノグの語源は昔、戦が起これた時の落武者達がこの森で命を失ったことから来たものである。現在も御嶽の周辺は密林地帯であり、用水ダムの建設により御嶽も水面に陥落し、昔の形は残っていない。

字千原の住民から見ると、この字千原の住民から見るにしのびないということで移転を大学側に求める声があるが、御嶽をはじめ巫女墓は未だ水中に寝たままである。

として人々が住み始めた。棚原杣山番人として八名の人がそれぞれ区域を管理していた。千原では、石原（西石原）、普天間（茶山普天間）、親泊、泉川の四名がそれぞれの管理区域に戦前まで住んでいた。杣山番人には、それぞれ四、百坪の耕作地（口畑・くちばた）が与えられていた。

千原は、棚原の屋敷部落であったが、昭和八年に字千原として独立した。その時、四十戸ほどの世帯が茶山中心に散らばって住んでいた。サーターヤ馬場などもあり活気にあふれていた。今大戦で多数の住民がなくなり、戦後、ペルーへ移住したり、那覇市、宜野湾市等へ転出したので現在は十四世帯、人口二五八人である。それも疏大移転に伴い千原の北端に移

（次面につづく）

燃えるゴミ、燃えないゴミは分別して出しましょう。

ナービグムイ (鍋小掘)

ナービグムイは、琉球大学農場の用水ダムに注ぐ溪流の上部にある。この大池が谷間にあり鍋のようになっているのでこれにちなんでその名がついたと云う。ナービグムイの上流にシーシジマ御嶽があり、その下流の方にウフタチグムイがある。そして溪流はダムへ注ぐ。

ナービグムイの周辺は、昔から千原部落の人達にとって最も神聖な場所であり、日頃立ち入ることがタブーとされた場所であり、特に親たちは、子ども達の水難を恐れて立ち入りを強く戒めた。

沖縄戦では、日本軍がここに陣地をつくり多数の将兵が戦死したと云われている。

昭和三十八年の七十二年ぶりの



▲普天間朝光さんが指示しているところにシーシジマ御嶽とナービグムイがあるところである。

イシグスク

琉大農場用地のすぐ北西側に丘陵がある。ここがイシグスクである。伝承によるとそこは本来はイシグスクグスクだといわれ、そのいわれは戦でグスクの全ての人が死に絶えたからだといふ。現在、この丘には、棚原・千原・森川などの各部落の人々の先祖の墓が多数残っている。その中に津覇高墓(ツハタカバカ)と云われ、棚原グスクとの戦で絶えた中城村字津覇の人達の墓がある。その子孫は今でも拝みに来ると云われ、イシグスクは、津覇との関係が非常に深い。

果樹園

トーフクエーマーチは、千原住民にとっては神の化身であったであろう。御願に豆腐を供えたことからトーフクエーマーチ(豆腐喰の松)の名がついたと云う。

昭和三十五年頃、台湾出身の陳さんという人が千原馬場の南側の山地約二万坪(村有地)を開拓して果樹園をはじめた。

おらがまち (四)

三区||徳佐田、森川、千原

トーフクエー マーチ

現在この松は残っていない。かつては直径一・五メートル、高さ十メートルもある大松で、泉川寛徳氏の屋敷の近く(現在の琉大北食堂付近)にあった。旧暦一月二日の山御願の時にはこの大松に集まり、ここで山の神へ御願をした。この大松は、戦災を免れ戦後も残っていたが、切り倒され森川の橋をかけ、残りはマキにされた。

一貫井 干ばつのとき修繕

字森川六七番地の棚原盛仁さんの屋敷前に一貫井(いっくわんがー)と呼ばれている水の豊富な井

琉大千原 キャンパス

沖縄の本土復帰に伴い、琉球大学の国立移管によって国立一期校並みの規模に整備拡充を図るため昭和四十七年四月に本町字千原の村有地処分が村議会で議決され、昭和五十年十二月に農学部附属農場敷地の造成工事が始まり、その後、移転の建設工事が着々と進められた。今年三月にはすべての



▶琉大千原キャンパス全景

3区の概観図



出移民

森川部落の移民の先駆者は、六十年前にペルーへ契約移民で渡った。安座間樁氏と島袋氏(ともに当時二十五才)であった。戦後もブラジルへ棚原盛栄氏家族(七人)、ポリビアへ島袋敏男氏家族が移民している。

千原では、ペルーへ三世帯(島袋仁芳、屋嘉比盛松、普天間朝雄の各氏の家族)が移民している。

棚原家、許田家、安座間家、島袋家、喜瀬家、知名家、渡慶次家などが移り住んだ。各家とも三戸〜五戸の親族であった。

千原では、戦前、普天間門中(普天間姓)が半数を占めていた。その他に渡名喜、石原、泉川、新里、親泊、長浜、比嘉、屋良、屋嘉比、島袋などの屋敷が点在していた。普天間門中の先祖は、金武御殿からの分かれで約二百五十年前にここに茶山の番人として移って来た。

門中

学部が百里キャンパスから千原キャンパスへ移転した。千原キャンパスの敷地面積は約七百四十四ヘクタール(三十四万四千七百四坪)と広大であり、その約三分の二が本町字千原に位置し、残りが中城村字南上原である。その琉大敷地はもと棚原山と呼ばれ、明治時代に村有地になったところであった。

徳佐田では、安座間門中(安座間姓)と佐久田門中(佐久田姓)が大半を占め、棚原部落よりここに移って来た門中である。

森川では、屋敷部落なので宗家はなく、百里から田舎降りした居住人(チュージュニン)である

町老人クラブ大会 盛大に行われる

健康で長生を楽しい老後をおくろうと一第回町老人クラブ大会が、七月三十日午後一時半から中央公民館大ホールで関係者約四百三十名の参加の下に盛大に行われた。中部地区十二市町村の老人クラブ会長も来賓として招かれた。「同じ仲間だ輪をつくれ」と歌う老人クラブの合唱により大会ははじめられ、呉屋幸夫会長のあいさつが行われた。

その後、昭和五十六年度事業計画及決算報告、役員紹介、昭和五十七年度事業計画及び予算報告、町老人クラブ連合会の活動にご功績があった方々への表彰状及び感謝状の贈呈などが行われた。

また、宮平町長、親泊町議会議長、瑞慶覧朝牛中老連会長、仲宗根町教育委員長などから来賓祝辞を受けて大会は一通り終えたが、その後、各区の老人クラブ（支部）や古典音楽同好会、琉球舞踊同好会などが趣向を凝した余興大会が開かれ賑わった。

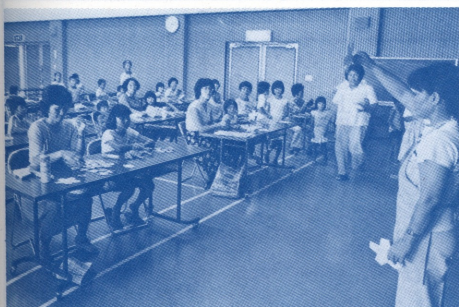
尚、表彰状及び感謝状を受けられた方々は次の通り。

▲表彰状 石原ウシ（十二区） 故・宮平亀助（十三区）

▲感謝状 宮平吉太郎（町長） 新垣チエ（前八区老人クラブ支部長）、喜納信徳（前四区老人クラブ支部長）、新川千代子（町体育指導員）



関係者四百三十名を集め中央公民館で開かれた町老人クラブ大会



▲新川さんを講師に手づくり教室

良い子ら真剣に取り組む 廃品利用の手づくり教室

手づくり（廃品利用による工作）を通して親と子の対話を図り創造の楽しさを子どもたちに身につけさせようと七月二十九日から八月十二日にかけて字内間一二番地の新川千代子さんを講師として親子手づくり教室が中央公民館で開かれ、九十六人が申込んだ。受講された親子は、真剣にパーク

と鼓（つづみ）を作った。パークは紙バンドを、鼓（つづみ）は包装紙やガキを利用して作られた。八月十六日には、受講生たちが作ったさまざまな作品が展示された。この教室は、子どもたちの創造性をひきたすのにも役立ったことでしょう。

ご協力ください 就業構造基本調査…10月1日



10月1日を中心として、全国で「就業構造基本調査」が行われます。調査の対象となったご家庭には調査員が伺いますので、ご協力をお願いします。

この調査はこれまでほぼ3年ごとに行われており、皆さんの仕事の内容や仕事に対する意識などについてお尋ねするものです。調査で得られたデータ

は、国や地方の雇用に関する政策をはじめ、皆さんの生活にかかわる政策のための基礎資料として活用されます。

なお、調査員をはじめ調査関係者が調査で知った個人や世帯の秘密を漏らすことは法律で禁じられています。また、調査票は大勢の人のものを合せて集計され、統計として利用されます。このため、秘密は完全に守られますから、ありのままを調査票に記入してくださいようお願いいたします。

坂田小PTA 第三回親子盆踊り大会賑わう



賑わった坂田小の親子盆踊り大会

坂田小学校PTA（稲福恭助会長、会員五三〇余名）では、夏休みを利用して、子どもたちの健全育成、親子のふれ合いの場づくりをスローガンに八月十四日午後七時半から同校グラウンドで第三回親子盆踊り大会を催し賑わった。

集った児童・PTAは、何んと千人余。厚生委員会を中心に一週間前から練習に練習を重ねた盆踊りに心ゆくまで興じた。焼そばや焼きイカの夜店も出店され祭りのムードを盛り上げた。

「悪い子を取り除く」という面からではなく「いい子にはぐくんでいこう」とはじめられた地域、親子のふれ合いとしての親子盆踊り大会。ユニークなPTA活動として内外から注目されている。

あつい親子関係、厚地域関係が永く続くようにと願いをこめた坂田小PTA親子盆踊り大会の夕べでした。

環境衛生週間 9月21日～27日

生活の向上につれて、家庭や企業などから出されるごみの量は増大しています。また、ごみの種類も増え、燃やすと有毒なガスを出すものなども出てきましたから、捨てればよい、燃やせばよい――と単純に考えられなくなりました。

さらに、ゴミの廃棄は、食中毒や伝染病の仲立ちとなるネズミやハエ、ゴキブリなどの発生と無関係ではありません。考えよう！

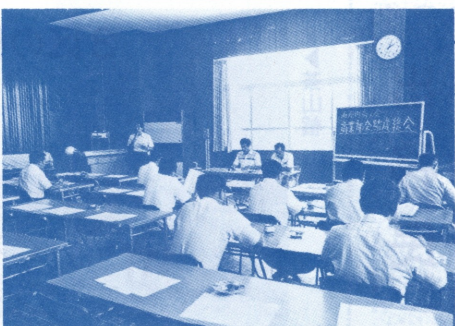
第二回町商工会商工部会総会 部会長に与那嶺清昌氏を選ぶ

第一回町商工会商業部会総会が八月十九日午後一時半から町役場の会議室で開かれ、与那嶺清昌氏が立候補委員長あいさつ、会則の承認、昭和五十七年度事業計画書の承認、役員選出などが行われた。この部会は、事業の改善発達と会員の親睦を図るためにつくられたものである。

香典返し

八月五日、字翁長一四〇番地の城間哲男さんから故母・ナヘさんの香典返しとして町社会福祉協議会へ十萬円の寄付がありました。

商業部会の結成総会



部会長に与那嶺清昌、副部会長に小川孝と宮平光吉、幹事に小波津正行、島袋義達、大浦定吉、玉城祐政、我謝豊子の各氏が選ばれた。

各区対抗バレーボール大会 六区が男女優勝

球技を通して町民の親睦とスポーツ振興を図ろうと町体協（平安恒政会長）主催の町各区対抗バレーボール大会が、七月二十五日午前九時半から西原中と西原小の両体育館で行われ賑わった。

参加は、男子十四チーム、女子十チーム。

熱戦の結果男子は、六区が2-0で五区を下し優勝し、昨年の雪辱を果たした。女子は、六区が2-1で十区を下し優勝した。

寄付お礼

七月二十三日、字小那覇六三八番地の野原広和さん（西原診療所）から町老人クラブ連合会へ「活動に役立てて下さい」と三萬円の寄付がありました。

この紙面をかりて野原さんのも厚意に感謝申し上げます。

昭和57年度 南部地区国民年金大会

日時 — 10月6日（水）
午後2時～6時
場所 — 中央公民館
記念講演 — 講師・上原直彦氏
アトラクション — 劇団「でいご座」仲田幸子一行
※優良団体として13区が表彰される予定です。
※町民多数のご参加をお願いします。

町青年会主催 第二回地域史を学ぶ講座終わる

八月十九日、午後八時半から町中央公民館で町青年会主催による「地域史を学ぶ講座」の第二回講演が開かれました。

今回は、講師に上原直彦氏、ゲストに北島角子さんを招いて行われました。テレビ・ラジオでお馴染みの二人だけに町民の関心も高く、会場は若い青年から御年寄りまで多勢の町民を集めたいへん盛況をみせました。

今回の講座は、上原直彦氏の「沖繩芝居の歩み」と題した軽快なおしゃべりに始まり、北島角子さんの味のある「一人芝居」へと続き会場からの盛大な拍手を受けてました。

南部地区国民年金大会は10月6日（水）午後2時～6時 中央公民館で